

## 区史の判型及び装丁について

「港区史」及び「図説版 港区の歴史」の刊行概要における、装丁及び資料編の判型については、平成30年度第1回港区史編さん委員会において、引き続き検討となりましたので、改めて下記のとおり整理いたしました。

### 1 判型

(1) 通史編（原始～現代）：A5

#### 【理由】

- ・手に取って読みやすく持ち運びやすい。
- ・段組みが縦書き1段となり、読みやすい。

(2) 資料編、自然編、図説版：A4

#### 【理由】

- ・写真や図版、錦絵をカラー（資料編はモノクロ、口絵はカラー）で大きく掲載できる。
- ・文字サイズを通史編より大きく掲載できる。

#### ※資料編の判型について

当初、資料編はA5としていましたが、大判の絵図等の掲載ができないことから、A4に変更いたします。

#### まとめ

通史編は読み物としてA5の縦書きで読みやすさを重視し、他は写真や図版等を大きく取り上げて掲載することから、A4として整理しました。

通巻 No		判型	色	段組
1～8	通史編（原始～現代）	A5	モノクロ（ただし口絵はカラー）	1段 縦書き
9～10	資料編	A4	モノクロ（ただし口絵はカラー）	—
11	自然編	A4	カラー	2段 横書き
12	図説版	A4	カラー	2段 横書き

## 2 装丁

全編、ソフトカバー（函なし）とします。

### 【理由】

- ・港区史編さんの基本方針でもある「身近に感じられる」「愛着のある」区史になるよう、手に取って読みやすく持ち運びやすい、区民が親しみを持ってるものにするため。

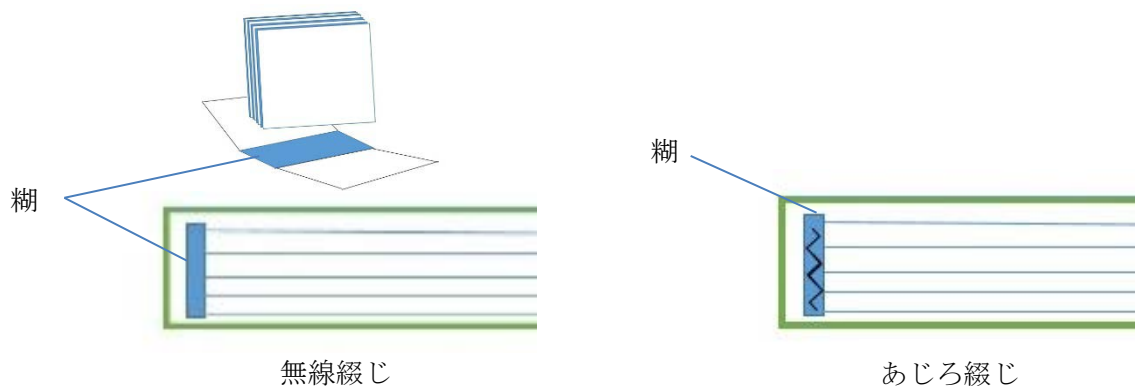
※ソフトカバーには2点デメリットがありますが、その欠点を最小限にするよう、下記のとおり工夫いたします。

#### ①頁数が多いと背表紙が割れるおそれや劣化が早い。

→厚さの最大は通史編近世で、約2cm（約400頁）です。よって、背表紙が割れるおそれはありません。

また、長きに亘る使用に耐えられるよう、とじ方等を「あじろ綴じ（※）」とします。

※あじろ綴じとは…本の背を糊で固めた無線綴じを改良し、本の背の部分に切れ目を入れ、そこから糊を浸透させる方法



#### ②豪華さに欠ける。

→本にカバーを付けることで対応します。

### 【参考】港区教育史について

港区教育史の装丁については、平成30年第1回港区教育史編さん委員会でソフトカバーに決定しており、判型は通史編、資料編、くらしと教育編ともに、A5・モノクロです。